

入 学 者 受 入 方 針

【大学の理念・目的】

福井県立大学は、時代の発展に即応した学術文化の高度化を推進する拠点として、真理探究の精神、広い視野と豊かな創造力、高度で専門的な知識・技術を有する有為な人材を養成するとともに、先進的な科学の研究および技術の開発を行い、学術情報を地域社会へ開放することにより、福井県はもとより、わが国の産業と文化の発展に寄与することを目的とし、もって人類の永続的福祉の向上に貢献することを使命としています。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げています。

- ① 新しい時代にふさわしい魅力ある大学
- ② 特色ある教育・研究を行う個性ある大学
- ③ 地域社会と連携した開かれた大学

【教育目標】

- ① 学問への関心を引き出すとともに、全人的教養を身につけ、自立した個人として成長できる能力を養う。
- ② 科学の飛躍的発展に対応できる高度な知識や技術とともに、専門職にふさわしい態度を身につけ、社会のニーズに対応できる能力を養う。
- ③ 少人数教育の特色を活かし、思考力・判断力・表現力・創造力・コミュニケーション力などを併せ持った総合的人間力を身につけ、社会・個人との豊かな関わりを持つことができる能力を養う。
- ④ 国際化、情報化、少子高齢化などの時代の変化を踏まえ、生命と環境、経済・社会、医療福祉の問題など新たな課題に取り組む能力を養う。
- ⑤ 自ら学問を探究する態度を身につけ、個性ある研究が行える能力を養う。
- ⑥ 地域社会との連携を深め、地域住民と協働した社会づくりに貢献できる態度を養う。

経 済 学 部

【理念・目的】

経済学部は、多様化し変動著しい現代経済社会および企業経営の在り方や法則、地域経済・企業や各国経済の特質を明らかにし、あるべき経済政策および経営を追求する研究を推し進め、経済・経営に関する専門的な知識を有し、情報活用能力・国際的感覚を持った人材を養成するとともに、研究成果を地域社会へ開放することを目的とします。

特に教育については次のことに心がけて行います。

- ① 研究に基づいて教育の水準を高く維持すること。
- ② 教員自身が研究に打ち込む姿を学生に見せるとともに、その成果を学生に伝えるように努めること。
- ③ 学生の知識水準に注意を払い、学生が吸収しやすいよう教授法についても研究を重ねること。
- ④ 多様な学生の需要に応じるため、教員集団の多様性を保ち、学生に自発的な選択の余地を与えるとともに、個々の教員も多様な見方があることを示すよう努めること。

【教育目標】

経済学部は、学生たちに向けて次のような教育目標を掲げます。

- ① 経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る。
- ② 現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける。
- ③ 自らの頭で考え、自らの進路を切り開くことができる自立した個人に成長する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

経済学部は、次のいずれかに該当する学力のある学生を求めます。

- ① 高等学校で英語、国語、数学、理科、地理歴史・公民に関して十分な基礎学力を身につけた学生
- ② 社会の仕組みや運動、企業の行動について興味を持ち、それらを知ることに関心がある学生
- ③ 経済学・経営学を学ぶことで、自分で考え自分で判断する力を身につけたいと考えている学生
- ④ 経済学・経営学について専門的知識を身につけ、それを将来就く職業に生かしたいと考えている学生

生物資源学部

【理念・目的】

生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。

この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。

- ① 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成
- ② 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成
- ③ 学術情報の地域社会への開放

【教育目標】

責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において変化するものとしなないものを見極め、現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題、特に持続可能な社会の構築に関して、最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる能力を養います。

生物資源学科

地域社会はもとより世界の人々の将来にわたる幸せのため、社会の多様な場で困難を解決しその真の発展を図れる、意欲・能力・創造性そして寛容さを備えた人材を育成します。そのため、次の教育目標を定めます。

- ① 科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けに必要な基礎的素養を身につける。
- ② 生命科学の幅広い理解と応用のための基礎として、数学、自然科学の知識および情報技術を身につける。
- ③ 生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につける。
- ④ 急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。
- ⑤ 生命科学に関する技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につける。

創造農学科

「食と農と環境」に関連する広範囲な分野で中心的に活躍するための知識と技術と経験を備えた人材を育成します。そのため、次の教育目標を定めます。

- ① 食用作物、園芸作物、飼料作物、家畜など、多様な農林畜産物に関する農学的知識を身につけ、農業生産に関する広範囲な実践的素養を体得する。
- ② 農林畜産物の生産・利用法・加工・商品開発やマーケティング等の分野における最先端の技術を学び、次世代展開を図るために必要な知識と技術を身につける。
- ③ 食と農と人（文化、芸術、福祉）を取り巻く環境について、地域や日本、世界の状況を知り、特に地域においては、その保全や修復の実践を通して学び、持続可能な環境や地域社会の構築に向けて行動するために必要な知識と技術を身につける。
- ④ 必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。
- ⑤ 技術的な課題を自ら見出し、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につける。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定めます。

生物資源学科

微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い意欲を持って取り組むことができる学生、生物資源にかかわる知識と技術をもとに、地域社会、日本、世界の人々の幸せのために将来働く意欲と希望を持った学生を求めます。

生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力の習得が必要です。

創造農学科

「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意志があり、将来、関連する分野で活躍しようという意欲と希望を持つ学生を求めます。

創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要です。

海洋生物資源学部

【理念・目的】

海洋生物資源学部は、海洋生物資源にかかわる諸領域での教育・研究活動を通じて、時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進、自主的な真理探究の精神と広い視野および豊かな創造力を有し専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成、および地域社会への学術情報開放の推進を目的としています。これにより、地域社会、日本および環日本海地域はもとより、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献することを目指しています。

【教育目標】

教育目的を達成するために身につけるべき具体的能力を、教育目標として次に掲げます。

海洋生物資源学科

- ① 海洋生物資源にかかわる技術者として、幅広い視野を持ち、科学・技術が社会や自然に及ぼす影響、効果および倫理的責任を理解して行動する。
- ② 海洋生物資源学の基礎となる数学、自然科学、および外国語で議論するために必要な基礎的語学力を継続的に学修し、論理的に思考する。
- ③ 海洋環境の保全および海洋生物資源の育成と利用にかかわる基礎的・専門的知識を身につけ、海洋生物資源の持続的利用に関する問題の解決に応用する。
- ④ 海洋生物資源の持続的利用に関する課題を解決するために、計画を作成して実践し、その成果を論理的に取りまとめて検証し、口頭で発表するとともに、積極的に議論する。
- ⑤ 他者と協働して海洋生物資源にかかわる問題を解決するために、自己のなすべき行動と他者のとるべき行動を的確に判断し、相互に意思疎通を図りながら行動する。

先端増養殖科学科

- ① 水産増養殖にかかわる技術者として、科学・技術が社会や自然に及ぼす影響、効果、および倫理的責任を理解して行動する。
- ② 魚介類や藻類などの生産・育成の分野における基礎から最先端に至る知識と技術を学び、それらを実践的に応用する。
- ③ 地域産業の発展と国際化のための戦略、経営管理手法、および国際的な社会貢献に関する知識と技術を身につけ、海洋関連産業（養殖・商品開発・流通販売など）の起業やマネジメントなどの実践的な行動に発展させる。
- ④ 社会的背景を理解して水産増養殖にかかわる課題を設定し、解決のための計画を立案して実践する。
- ⑤ 課題解決に向けて、他者と相互に意思疎通を図りながら行動し、成果をまとめて文章および口頭で論理的にわかりやすく発表する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

教育目的を達成するため、海洋生物資源学部は次のような学生の入学を求めています。

- ① 海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に強い関心を持ち、科学・技術を通してその解決に貢献する意欲を有する学生。
- ② 海洋生物資源学を学ぶために必要となる理科、数学および英語などの基礎学力を有し、自主的な学習習慣を身につけている学生。
- ③ 他者と協力しながら学ぶためのコミュニケーション能力を身につけている学生。

看護福祉学部

【理念・目的】

看護福祉学部では、人権尊重と擁護を根幹とするヒューマンケアの理念に基づき、専門的知識・技術の開発にかかわる研究を推進します。さらに、社会情勢の変化に伴う課題への実践的な取り組みを通して、人々の健康的な生活の創造に寄与します。教育においては、個性豊かで創造的な人間性を育むとともに、看護および社会福祉の専門的知識と技術および倫理観に裏付けられた実践力を持って、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成します。さらに社会およびその時々の個人・家族のニーズに応じた高度なサービスを普遍的に提供するために、専門職として自己研鑽を積むことができる人材を養成します。

【教育目標】

看護福祉学部の教育目標は、次のとおりです。

看護学科

- ① 生命の尊厳、人権擁護の立場から人々の健康生活を支援できる能力を育成する。
- ② 人々を全人的に理解するための豊かな感性を育成する。
- ③ 科学に裏付けられた専門的知識と技術を用いて、人々の個別性に応じた看護を主体的に創造できる能力を育成する。
- ④ 保健、医療、福祉との連携・協働を図り、個人および社会のニーズに応じた看護を実践できる能力を育成する。
- ⑤ 自ら探求する態度を身につけ、将来にわたり専門職として看護を発展させていくための研究、教育および管理能力の基礎を育成する。

社会福祉学科

- ① 普遍的な社会福祉の価値観、思想および倫理を重んじ、人間の尊厳重視、人権擁護および社会正義の立場から人々の生活を支援できる人材を育成する。
- ② 人々の生活やその困難を環境との関連から理解し、人々に共感することのできる幅広い知識と豊かな感受性を育む。
- ③ 科学に裏付けられた知識、方法および専門技術を用い、人々の個別のニーズに応じた社会福祉サービスの創造と適用ができる能力を育成する。
- ④ 学際的な多職種連携による実践を通して、個人、家族および社会のニーズに応えられる能力ならびに国際的視野を涵養する。
- ⑤ 講義・演習・実習という三つのプログラムにおいて、専門職を目指して社会福祉を主体的に学び、探究していく姿勢と態度の修得を促す。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

看護学・社会福祉学は人々の健康と生活に直接かかわる学問です。看護福祉学部では、社会の動向や人間に関心を持てる人、他者の考えや独自性を尊重できる人、経験を通して自分自身を振り返ることのできる人、さらに主体的に学修に取り組む熱意のある人の

入学を求めます。高等学校においては、人々とのコミュニケーションに必要な国語や英語の基礎学力を高めること、さらに、社会、地域、人々の生活および人の身体やこころの仕組みを理解できるような科目を意識的に学修することを望んでいます。